

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員研修の中で事業所の理念に触れ、理念に基づいた目標を掲げている。	開所当初から地域密着型サービスの意義を踏まえ、利用者が地域の中で安心して暮らし続けられるために、職員間で話し合いを持ち、事業所独自の理念を作り上げ日々のサービス提供に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症により、運営推進会議や、地域住民の方との直接的な交流があまりできていなかった。	近隣の人々とは挨拶を交わすのみでなく、地域の一員として連携を図っている。現在は自粛の状態にあるが、地域行事があれば出かけていくなど、近隣の方々とは日常的に交流を深めてきている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルスの影響で地域の自治会、民生委員との連携はおたよりや電話等で図り、相談窓口となっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染症により、運営推進会議の開催は中止となる。ご家族や自治会長、民生委員、地域包括、薬剤師、ご近所様へは資料を郵送し、意見や質問等あれば電話対応としていた。	運営推進会議は定期的開催され、家族、利用者については参加メンバーは特に決めておらず、可能な限り参加を呼びかけている。会議は和やかな雰囲気となり、状況報告や情報交換のみならず、メンバーからの意見、質問を受けて双方向的な会議となっていたが、感染症によりメンバーが一堂に会する機会を設けることは難しい状況にあり、必要時は電話や文書により意見を頂いている。頂いた意見は貴重なものとなり全職員が共有してサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業を運営する上で疑問点等を伝え、助言をいただく等、連携を取っている。	新潟市とは折に触れ事業所の取り組み状況や利用者の状況を伝えアドバイスを頂きながら、不明なことがあれば頃から何でも相談出来る協力関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中、ユニット出入り口、玄関の施錠は原則的には行わず、閉塞感を与えない様に努めている。但し、階段につながる出入り口については転落の危険が大きい為、普段は施錠しエレベーターの使用をお願いしている。	利用者の人権を守ることがケアの基本であるという認識の下、定期的に学ぶ機会を設け、職員の共通認識を図り意識的に取り組んでいる。何気なく発する言葉に気づいた時はその場で注意し合い、安全確保に努めながら抑圧感のない自由な暮らしの支援に取り組んでいる。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者、職員とも研修等を通して学び、対応防止に努めている。	「高齢者虐待防止法」について定期的に内外外部研修で学び、理解の浸透や遵守に向けた取り組みを行っている。今後も利用者との関わりの中で、言動や行動について振り返る機会を設けていきたい、と意欲的である。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、職員とも研修等を通して学び、ご利用者様、ご家族様の支援ができる様に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項の説明を行い、ご質問等にはお答えし、理解・納得をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、意見を伝える事ができるよう対応している。ご家族様へは日用品、受診等に来所された際や、電話等で意見や要望等を直接聞く機会を設けている。	面会時や運営推進会議で何でも話しやすい雰囲気作りに努める中で、利用者、家族からも自由な発言をもらっており、頂いた意見は会議やミーティングの中で話し合い運営に反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は朝礼、会議、ミーティング等を通し職員からの意見等を聴き吸い上げるように努力している。また管理者は会議を通して代表者に対して職員の意見等を伝える機会がある。	管理者はミーティングや職員会議の中で職員の意見や要望を聴く機会としている。また、日頃からどんな些細なことにも耳を傾け、業務改善について話し合いながら運営に反映させている。また、管理者は代表者に職員の意見や提案を聴いてもらう大切な機会ともしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	代表者は全職員に資格取得を奨励し、資格取得者には祝い金や資格手当を支給し、励みとなるような制度を設けている。また夏季休暇、冬季休暇をそれぞれ3日ずつ支給している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体で職員教育のため研修制度を設け、力量に添った研修を受ける事ができるようにカリキュラムを組み立てている。外部研修も随時予定している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルスにより、同業者との交流は自粛している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前訪問等をし、家族の意見や本人の気持ちを伺い、安心して暮らせる為の関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族と話し合い、今までの生活状況や不安に思っている事等を聞き取りながら関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の思いが異なることもあるが、間に入って調整しながら方向性を見つける努力をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者の生活を支えるという事を重視し、本人のできる事、介助すればできる事を見極め、生活全般に関わる事に対し、その方に応じた支援を行っている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームでの様子を居室担当者よりお便りという形で月に1回家族に報告している。また居室担当者を中心に家族と連絡をとり共に支えていく関係づくりをしている。	職員は家族の思いに寄り添いながら、毎月の手紙の中や面会時に日々の暮らしの出来事や気づきの情報共有に努め、計画作成時もカンファレンスへの参加を得ているなど協力的な家族も多く、共に本人を支えていく姿勢に努めている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルスの関係で知人との面会にご遠慮させて頂いているも、手紙を出すための支援等は行っている。	利用者の思い出話に耳を傾けながら、一人ひとりの生活習慣を大切にしている。また、現在は遠慮していただいているが近隣の方々や友人の訪問の際は、誰でもが気軽に立ち寄れる事業所としての雰囲気づくりに努め、馴染みの人や場所との関係が継続出来るよう、手紙を出すための支援も行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	心身の状態や対人関係を観察しながら、時には間に入り、和やかな雰囲気を作れるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お便りや電話等を通して交流を続けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何気ない会話や言動の中にヒントを見つけ、思いに添った支援ができるように心掛けている。また家族からも情報や意見をいただく様にしている。	事前面接で本人、家族から得た情報に加え、日々の暮らしや会話の中からその人の思いや意向の把握に努めている。また、意思の疎通が困難な場合は、家族から得た情報に加え、前事業者からの情報も得ながら日々の支援に繋げている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のご本人様の情報を、ご家族様よりセンター方式シートに記入して頂いたり、ご家族様からの聞き取りや、普段の会話の中から把握できるように努めている。	入居前に本人、家族からセンター方式アセスメント表への記載協力を得るとともに、前事業者等関係機関からも情報収集に努めている。入居後も日常会話の何気ない会話の中から得られた情報からも、その人らしい生活が継続できるよう支援に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	居室担当者を中心に一人一人に目を向け、小さい気付きを積み重ね、情報を共有し、個々の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者はご本人様、ご家族様から聞き取りを行い、ユニット職員からはセンター方式シートを用いてそれぞれの意見等を反映し、定期及び必要時に検討会を開催している。	センター方式シートを活用し、本人、家族の意向を聞きながら計画作成担当者、居室担当者でカンファレンス、モニタリングを行い計画作成をしている。定期及び必要時に家族参加のモニタリングを行い、本人家族の意見を踏まえ、本人の現状に即した介護計画の作成に繋げている。	介護計画は計画作成担当者が中心となり家族の意見や要望を詳細に組み入れ、利用者の状態に即した介護計画となっている。今後は介護計画表に沿った、評価項目箇所実践状況内容の記入された介護計画書作成が望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録を個別に作成している。特変時等には別に記録し、申し送りも行い情報の共有をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外部サービスの導入として、ニチイの通院介助やヘルパー付き介護タクシー等を活用している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会や近隣住民の方からは入居者の様子を承知いただいている。ただ、新型コロナウイルスにより協働とまでには至っていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時には医療連携表を用いてホームでの様子をかかりつけ医に伝達し、適切な指示を仰ぐ等連携を図っている。	利用者、家族が望むかかりつけ医の受診継続が可能であり、また、通院時の家族の協力も良く利用者は安心して受診できている。受診の際は、医療連携表を用い、主治医、施設との情報伝達を図っている。また、看護師による定期訪問や薬剤師による薬の管理等適切なアドバイスも受けられる体制が整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が定期的に訪問して、日頃の様子や状態を把握しやすいように専用の用紙を使い、お互いに情報を共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関への情報提供やソーシャルワーカー等に対し、情報交換や相談の機会を設けてもらう様になっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前及び必要時に事業所でする事の説明を行っている。心身の状況や様子の変化等については、家族と情報を共有し、かかりつけ医との連携がとれる様に努めている。	契約時に重度化した場合や終末期の対応について、本人、家族に事業所でする範囲の説明を行い同意を得ている。本人、家族の望む支援体制の下、関係機関、病院、施設入所等の他、看護師とは夜間のオンコール対応等連携を図りながら家族の要望に沿った支援に努めている。	重度化や終末期に向けた方針については、契約時に本人、家族と話し合い事業所としてできる範囲の説明を行い理解してもらっているが、今後はマニュアルの作成及び研修を実施していくうえで職員全体への理解浸透が期待される。
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの講習を適宜受講する事になっている。	急変時事故発生時のマニュアルを基に緊急連絡網を作成し、AEDの設置、救命救急法訓練など緊急時に備え全職員が実施できるよう研修を実施している。急変や事故発生時マニュアル、伝達通報も整備され各コーナーに貼付し、即対応ができる体制は整っている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的実施している。	災害対策については、地域に回覧板や自治会長への協力呼びかけ等を行っている。避難場所、避難経路の確認、災害時に備えての備蓄等も準備されている。例年地域で開催される防災訓練にも参加していたが、現在はコロナ禍のため自粛されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修等を通して、皆で考えた指針をスタッフルームの見える箇所に掲示している。	個人情報、接遇及びプライバシー保護に関する研修を行うとともにスタッフルームにも指針を掲示し、日々の生活の中での言葉かけ、対応など、その人らしい尊厳ある姿を大切に、笑顔で穏やかな対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	衣類を選ぶ時等、様々な場面で職員の方からも働きかけながら、自己決定ができるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「職員のペースではなく、入居者様のペースで」という目標を掲げ実践しようと心掛けているが、一日の流れの中では対応しきれない場面もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や外出の際の身だしなみ等、整えられる様に支援している。またお化粧品等についても、その人らしくいられる様に配慮しながら支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜を切る、和える、盛り付け、配膳、米研ぎ、量物等お願いしたり、入居者様から「手伝いましょうか」と声を掛けていただく事がある。食事の準備には複数の入居者様から関わっていただいている。	食材はネットスーパーから購入し献立は法人内で作成している。食事準備ができる利用者は、野菜の皮むきや盛り付けなどを一緒に行い下膳も職員と共に行っている。また利用者の手書きの献立表をリビングに張り出すなど、和やかな食事準備がされている。日曜日はフリーメニューにて出前や行事食を楽しむ日として食事の工夫もされ好評を得ている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食事の食事量のチェックや水分摂取量のチェックは一日を通して行っている。これを基に個々に応じて支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の状態を見極め、毎食後全員に歯磨きの支援を行っている。(声掛け、促し、見守り、一部介助、全介助) 義歯のある方に対しては毎晩、義歯洗浄剤を使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失敗が少なくなる様、本人の動作や仕草で気付く事や時間を見て声掛けを行う等、支援をしている。	現在オムツ使用者は居られず、ほぼ全員トイレでの排泄となっている。本人の動作や仕草で気づきトイレ誘導を実施している。一部の方は紙パンツ、尿取りパット、夜間のみポータブルトイレを使用している。オムツからリハパンツに改善するなど全職員が自立に向けた排泄支援と機能低下予防の取り組みを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量をチェックしたり、身体を動かす機会を設けたりと、薬剤に頼る事の無いよう個々に応じた取り組みを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	安全面や職員配置の問題もあり、時間帯の制限はあるが、できる限り個々の希望やタイミングに合わせて入浴は行っている。	入浴時間は定めているが、拒否の場合は個々の希望や時間を変更するなど調整している。また、自尊心に配慮した同性介助の対応や車椅子利用者の介助は職員2名で行なわれている。転倒や事故防止予防に努め、安全で気持ちよく入浴できる支援を心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的に自由に過ごしていただいている。レクリエーション等も強制する事なく、個々の意思を尊重している。但し、夜間の睡眠を気持ちよくしていただく為に、昼間の活動への参加促しは行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員担当者は薬剤情報の把握に努め、変化等があった際は全職員に発信し、情報の共有を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や日々の様子を観察し、会話等の中からヒントを見つけ楽しみや気分転換ができる様、個々に合わせた働きかけを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの影響もあり、ご本人様の意向に添えられていないも、その日の天候や個々の気分に応じて散歩等、感染対策を行いながら、外出(散歩、ドライブ)の支援ができるように努めている。	事業所周辺は古町通りの町並みであり、散歩や買い物を楽しむことが喜ばれている。コロナ禍のため自粛されている部分もあるが、感染対策を行いながら敷地内の散歩やドライブに出かけ、歩行機能低下予防のための外出支援に努めている。現在、コロナ禍のため、地域の人々や家族との外出支援は自粛している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様よりお小遣いを預かっており、必要な日用品等は外出時に買い物ができるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	取り次ぐ事や電話をかける為の支援はその都度職員が行っている。中には携帯電話を持っている方がおり、ご家族とLINE電話で通話をされている。年賀状や暑中見舞い等のやり取りの支援は行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先に季節の花々や装飾品を飾ったりしている。フロア内の飾りは季節感のある装飾品を飾るよう心掛け、入居者様と装飾場所等相談しながら一緒に飾るようになっている。日中は日当たりが良く明るい空間となっている。	共用空間は衛生面、清潔面に配慮しつつ、季節を感じる飾りつけや利用者の写真、活け花を飾るなど共有空間作りを心がけている。テーブルを囲み談笑している利用者の笑顔や職員と一緒に調理を楽しんでいる姿は、居心地の良い家庭的な雰囲気が窺える。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用のスペースにはテーブル、イス、ソファが置いてあり、思い思いの場所で過ごせる様に配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や道具等、自由にお持ちいただいている。	本人、家族と相談し、使い慣れた馴染みの寝具類、家具、家族写真など思い思いの品物を持参し、その人らしく落ち着いて過ごしてもらえる配慮がされている。毎日お仏壇にお参りし、在宅生活の延長支援にも心がけ、心やすらぐ場となっている。自室の掃除も職員と一緒にするなど清潔感も確保されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	料理作り(野菜の皮むき、野菜切り、味付け)、盛り付け、配膳、下膳、食器洗い、食器拭き、洗濯物干し、置物、掃除等、個々の「できること」「わかること」を活かし、自立した生活が送れるように工夫している。		